

2020年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492200371	事業の開始年月日	平成23年4月1日	
		指定年月日	平成29年4月1日	
法人名	社会福祉法人 県央福祉会			
事業所名	ラ・プラージュ湘南			
所在地	(251-0037) 神奈川県藤沢市鶴沼海岸6-7-14			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18	名
		ユニット数	2	ユニット
自己評価作成日	令和2年10月15日	評価結果 市町村受理日	令和3年3月18日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者の生活支援というところに重きを置き、認知症になっても今までのように生活できるように支援したいと考えています。そのために、常に学ぶ姿勢を大事にして専門性の向上を目指しております。また、近隣にある公園や商業施設など恵まれた環境のなかで、地域との繋がりも意識しております。「入居者様1人1人の主体性がある、その人らしい生活の実現」を理念に掲げ、最期の時までその人らしく生活できる事業所作りを目指しております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和2年12月4日	評価機関 評価決定日	令和3年3月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所はJR東海道線「藤沢」駅北口から鶴沼車庫行きのバスで10分「藤原」バス停で下車し、徒歩3分です。バス通りから20メートルほど入った住宅地にあります。事業所の前は野球場やテニスコート、室内プールが点在する大きな運動公園です。付近には商業施設などもあり環境に恵まれています。

<優れている点>

職員は利用者を介護される側だけの立場に置かずに、利用者の生活を支えていくよう努めています。利用者や家族に対してサービスの内容や提供方法についてわかりやすく説明しています。職員側の都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか要望に沿って支援しています。職員は身体拘束防止委員会やアクティビティー委員会、研修委員会などを分担し、管理者はそれぞれの運営を担当者に任せています。アクティビティー委員会は七夕、敬老会、こどもの日、芋煮会など企画から運営まで担当し、入居者や家族、近隣の住民などにも声掛けをしています。研修委員会などは本部の各種マニュアルを教材に研修会を実施しています。職員や利用者も役割を担当することにより満足度を高めています。

<工夫点>

毎年、本部から事業所の職員一人ひとりに直接メールで「意向調査」を行い、それぞれ年間目標や反省などを把握しています。職員が抱えている課題やニーズなどを話し合い、研修会を開催しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ラ・プラージュ湘南
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念はだいぶ浸透してきていると思います。今年度は職員全体での研修は実施出来ていませんが、新入職員に向けては入職の際、理念についての研修を実施しています。	利用者一人ひとりを生活の主体者として捉え、その人らしい生活を目指そうという理念をリビングや事務所に掲示しています。職員は利用者の尊厳を大切に利用者の自己選択や自己決定に寄添い、日々の支援の中で理念の実践に努め、浸透を図っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近所の方へのあいさつは習慣にしています。今年度は大きな行事が実施できていないため、事業所に足を運んでいただくことが出来ていません。	地域の一員として町内会に加入しています。回覧版を通じて近隣の人々と顔馴染みになり、地域の情報を把握しています。近隣の公園の祭りや体操教室などにも参加をしています。事業所の夏祭りやボランティアによる音楽祭などには近隣の住民を招待しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症があっても地域で生活できるという事を知っていただくために、散歩等を日常的に行っています。今年度も藤沢市グループホーム連絡会が主体となり認知症サポーター講座を実施する予定でしたが延期となっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年度はコロナウィルスの影響で、運営推進会議は書面にて実施しています。事業所の活動内容を報告して、意見やアドバイスをいただき事業に反映しています。	書面会議を含め年6回実施し、市やいきいきサポートセンターの職員、民生委員、地域住民、家族などが参加しています。事業所から活動状況や行事報告、今後の予定などを説明し、参加者からの地域の情報や各々の立場からの発言などを運営に反映しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	2ヶ月に一度、藤沢市のグループホーム連絡会を実施予定でしたが、今年度は実施できておりません。	隔月に開催している市主催のグループホーム連絡会や事業所の運営推進会議の参加時に待機者の情報や運営について話し合っています。市の職員が不参加の場合は管理者が議事録や案内状などを手渡しで提出し話し合っています。今年は中止が多くなっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束にあたる、具体的な行為などをミーティング等で共有しています。玄関の施錠については、ご家族からも戸締りをしたほうがいいのではと意見をいただき戸締りをさせていただいております。	毎年、虐待や身体拘束をしないケア、不適切なケアなどについてチェックシートを用いて確認しています。言葉による虐待も何が虐待にあたるか話し合っています。不適切な場面があった場合は、リーダーがその都度ミーティングで説明しています。日中、玄関は見守りを重視し施錠はしていません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ミーティング等で虐待について学ぶ機会をつくっています。声掛け等、細かなところから日常的に気をつける組織風土をつくっていきたくです。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	事業所では、数人後見人を立てている利用者さんがいらっしゃいますが、まだまだ知識不足なので勉強する必要があると思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、解約または改定等の際は、利用者やご家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日頃から入居者やご家族の希望・要望を聴くことを心がけています。ご家族の面会時などに積極的にコミュニケーションをはかり、運営に反映できるように努力しています。	管理者は本人や家族から意見や苦情があった場合の対応について契約時に苦情マニュアルや契約書でわかりやすく説明をしています。利用者一人ひとりに居室担当を決め、毎月発行する事業所の新聞で家族に利用者の様子を伝え、家族と電話で話し合っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のフロアミーティングや、個人面談の際に意見や提案を聞く機会を設けています。その際に十分に検討して合意形成をはかってから、運営に反映するようにしています。	毎月フロアミーティングで運営に関する意見や提案を話し合っています。毎年本部から各職員に直接メールで意向調査を実施し、それぞれの目標や成果などを把握しています。職員は各委員会に所属し、責任ある分担制を取っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	常勤に関しては、能力や実績を把握できるように人事考課制度が見直されています。また、年に1回職員の意向調査・満足度調査をおこない、各自が向上心を持って働けるように職場環境を整備しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内では個々の専門性を高める為の研修が定期的に行われています。事業所内でも研修を担当する委員会を作り、職員がどんなことに不安を抱え何を学びたいのかアンケートを取り、アンケートをもとに研修の計画をたてています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内では、月に一度管理者が集まる会議を実施しています。昨年度から神奈川県グループホーム協議会の幹事も務めており、他事業所の取り組みなどを参考にしています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス開始前にご家族及び関連医療機関等から利用者様のこれまでのご様子・嗜好・既往歴等の聞き取りを行い、スタッフ間で共有・事前に支援計画を作成しています。また、利用者様が入居された後は、積極的声掛けを行い、信頼関係を構築、利用者様の御意向や、潜在的な不安を払拭するよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族とのコミュニケーションを密にして、利用者様の普段生活の様子をお伝えすることで、初期段階で判らなかった問題点・ご家族・スタッフの気づきを話合う機会を設け、状況によって変化のご家族の不安点困っていることの解決に向けて意見交換を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者様のこれまでの病状の経緯や、ご家庭のご様子・ご家族の御意向の聞き取りを徹底的に行い、必要とされる支援に優先順位を設定、まず、解決しなければならない点を明確にし、ご家族の同意を得た上で、当施設で出来る事、関連機関への支援要請を含め、広い視野でのサービス提供を心掛けて活動しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	生活歴や、性格を共有し、その方の出来るを維持できるように、また出来ないことを職員のフォローで出来るように支援しております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居者のご家族も、”共に生活する家族の一員”として考え、ご家族に対してもどんな支援が必要か・必要な情報は何か？を考え、併せてご家族からも安心して様々なご相談を発信して頂けるよう、事務的ではなく、家族的な関係構築をスタッフ全員で常に考えて行動しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者のこれまでの生活様式等をご家族・関係者の方からヒヤリングを行い、今迄の生活環境に出来るだけ近づけるように工夫して支援を行っています。また、ご家族・お知り合いの方の施設へのご訪問の機会を作って頂けるよう、スタッフからも情報を発信しています。	入居前に自宅を訪問してこれまでの生活習慣や趣味、仕事などをアセスメントしています。家族や親族の協力で買物や外食など馴染みの場所に出かけています。正月には日帰り帰宅をして家族は利用者の現況を確認しています。家族との電話を支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	共有スペースでの利用者の方のご様子等をスタッフが注視し、適切なタイミングでの声掛け・簡単な家事を協働で行って頂く等、利用者の方々の良好な関係作りと維持を支援しています。また、利用者の方のパーソナルスペースを意識し過度の干渉等が発生した場合にも適切なタイミングでスタッフが介入し、個人のご気分を害さない様に、留意して支援を行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後も利用者であった方のご様子を含め、ご家族の状況等を伺う機会を設け、必要に応じて、過度な干渉にならない範囲での相談・支援を行えるよう良好な関係の継続・維持に努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者、ご家族・関係者の方々の御意向を傾聴し、スタッフ間で共有・分析を行い、ご希望に沿った支援を行うように活動しています。また、意向の把握が困難な方でも、ご本人の気持ちを汲み取り、その方が何を求めているのか職員間で共有しケアにつなげています。	利用者の日々の会話や表情の変化などから思いや意向を把握するよう努めています。職員は常に利用者が主体という立場に立って本人が「何をしたいか」「何が出来るか」などに気づいた時には申し送りノートなどに記録し、全員で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に、本人やご家族、関係機関から生活歴、その方の人となりなどの聞き取りをおこない、入居しても環境の変化、対応の変化に混乱することのないように心がけております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者一人一人の体調や生活スタイルを考慮し、必要に応じて安静臥床や散歩、外気浴をお勧めし、出来る範囲で家事を行っていただく等、残存能力を発揮して頂く場を設けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日常生活の中で利用者さんについて疑問に思った事をその日の出勤メンバーや、月のミーティングにてスタッフ同士で話し合い、その方に合わせた介護計画を作成しています。	毎日の変化や気づきなどを記録した申し送りノートから日常的にモニタリングしています。居室担当者からの変化などの情報も反映しています。基本的には6ヶ月毎に本人や家族の要望や意向などを確認し、医師や看護師の助言を取入れ介護計画を更新しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録は入居者個々に24時間スケールで記入しております。ケアに対する結果、入居者の変化等を記録に細かく落とすことで職員間で情報を共有出来、気づきや課題が浮かんでくるため、介護計画の見直しに役立っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族や入居者ご本人から希望が出た場合には、なるべく希望に沿えるよう、ご家族とも相談を行いながらサービスを検討し、対応しております。今後もサービスの多機能化に努めて参ります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	密を避け、マスクをつけつつ、施設の向かい側の公園での散歩や、外の空気を吸うだけでもと、日光浴などを実施しています。行事等に関しても、コロナウィルスの影響で、密にならず、一定の距離を保つよう心掛けています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご家族の希望される医師に主治医となって頂いております。入居者に体調変化等があった際には、24時間、提携先の訪問看護ステーションや主治医からの指示を仰ぐことが出来、必要に応じて往診して頂ける体制が出来ています。	入居前からのかかりつけ医を含め3人の医師の訪問診療が月2～3回あります。訪問看護は週2回で血圧測定や爪切りなど健康管理にあたっています。訪問歯科の検診、治療は週1回です。医師の指示や健康状態などは状況報告書を通して職員間で共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	一週間に一度、定期訪問看護があり、入居者の一週間のご様子を伝え、指導や助言をもとに適切な支援を行っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された場合、病院の担当医師や看護師と入院時の生活状況、退院後の支援方法等の情報共有に努めております。提携している医療機関とは関わりも多く、良好な関係が築けています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化、終末期の兆しが窺える入居者に対しては、ご本人、ご家族の意向をお聞きした上で、主治医や訪問看護師とを交えながら今後の生活の在り方や支援方法について話し合い、チームケアを行ってまいります。	契約時、終末期における事業所の方針を説明し同意を得ています。実際に看とりの状態になった時は、主治医と支援の方向性を確認し、家族に説明しています。何が大事かカンファレンスで検討し、振り返りを重ねながら医師、看護師、職員で支援方法を共有し、看とりケアに努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時マニュアルを作成しており、緊急時の対応についてはスタッフに伝えております。応急手当や初期対応が冷静に行えるよう、ミーティング等で定期的な訓練を行い実践力を身につけるよう努めます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防設備の使用方や初期消火訓練を消防士の方から教えて頂くことも含め、火災、地震、水害等を想定した避難訓練を年に3～4回実施しております。近隣の施設が津波時の避難場所となっており、協力体制が築けています。	地震、火災、水害を想定した、夜間を含む避難訓練を年2～3回実施しています。災害の状況によっては、安全面から外に出ず事業所内での避難を考えています。食料品、飲料水を3日分備蓄し、ヘルメット、カセットコンロ、救急箱などの防災用品をリストを作成して管理をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者様一人一人のプライバシーを確保し、人生の大先輩である事を心にとめ、尊敬の念をもっての対応に心掛けております。傾聴を大切にし、心の声にも着目するよう心掛けております。	アセスメントを繰り返し、生活歴や好み、希望を把握し、フロア会議などで情報を共有しています。職員は暖かいふれあいの中にも適切な距離感を保ちながら接しています。理念の「主体性のあるその人らしい生活」ができるよう意識を高く持って支援しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	毎日の体調にも留意しながら1人1人に丁寧に、表情の変化にも着目し、傾聴にも心がけております。ご本人の意思を何よりも大切にし、可能な限りお気持ちの添った支援を心がけております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者の生活歴や、ご希望に寄り添い、入居者主体で過ごして頂けるように努めております。傾聴に重きを置き、日ごろの思いをきちんと把握してその人らしい暮らしが出来るよう支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	日々の生活の中で、ご自身で洋服を自由にコーディネートしたり、鏡を見ながら眉を描いたり、口紅やマニキュアをつけたりとお化粧やおしゃれを楽しんでいただける様支援に勤めております、アロマオイルやお化粧で気分が上がり、自信や社交性を高めたりと、認知症軽減などの面で効果が出ております。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	皆様の食事に対しての高い知識をお借りし、野菜切りの形状や皮むきなど職員が教えていただく姿勢で食事の準備をさせて頂いております。食器洗いや食器拭きも重い瀬戸物軽いプラスチックに分け、その人の握力に合わせて行っていただいております。	食材は宅配サービスや近所の商店で購入し、利用者の希望を聞きながら献立を決め、職員が調理をしています。利用者は野菜を切ったり、テーブル拭きや茶碗洗いなどに参加しています。食事の前は体操をして、食事への意識を高めています。コロナ前は寿司やそばなど外食にも出掛けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	エアコンのフル回転の施設内では、のどが渇く、汗をかくことがほとんどないため水分摂取を心掛け、1日1ℓ以上を目標に飲んでいただくよう心掛けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	ご自身の歯がある方は維持できるよう口の中の汚れ、におい、義歯のある方は義歯も清潔にできるよう毎食後その方に合わせた口腔ケアをしております。歯科往診で定期的なチェックもしております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	入居者様の排泄パターンを共有し、時間毎にお声掛けやトイレにお連れし自立支援をしております。	トイレでの排泄を基本とし排泄チェック表から排泄パターンやタイミングを把握して支援をしています。その人だけに分かるように耳元で声掛けをして誘導しています。夜間のトイレが頻回だった利用者が、職員間で問題点を検討して対応を見直したところ、かなり回数が減少した改善例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	記録により、便秘の発生を事前に察知し、水分量を多めに促したり、腹部をマッサージし、排便を促しています。改善されない場合は医師の指示のもとお薬でコントロールしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	入居者のご希望を尊重し気持ちよく入浴して頂けるよう努めております。入浴ごとに浴槽を清掃し衛生面にも留意しています。入浴回数を記録し偏りが発生しないように計画を立てて入浴支援を行っています。足腰が弱い方にも入って頂けるように、付き添いのもと、機械浴での支援も行っております。	入浴は週2回午前中を基本としています。機械浴の設備があり浴槽を跨ぐ事が困難な利用者も安心して入浴しています。湯は毎回入れ替えて清潔を保ち好みの入浴剤やこだわりのシャンプーボディソープを使っている人もいます。拒否の強い利用者には無理強いせず、曜日を替えて対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	朝起きて、夜に寝るといった基本的な人間の生活サイクルを大事にしつつ、押しつけがましくない様努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋やお薬カードなどの情報の把握に努め、情報の共有にも力を入れています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居者様一人一人の好きな事、得意なことを把握した上で、その日の体調を確認し、利用者様に合わせ支援を行っています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナウィルスの影響で、これまでのような外出は難しい状況ですが、人が集まらない場所への散歩や、事業所前での日光浴などを行っています。	マスクをして、少人数ごとに近くの引地川周辺や公園を散歩しています。また江ノ島へドライブをしたり、事業所前で日光浴や外気浴をして気分転換を図っています。コロナ前は地域の祭りや利用者の希望で桜や紅葉見物、水族館などに出掛けています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を所持している方は、お小遣い帳に記録していただき、どれだけ使われているかを把握していただいています。それにより、忘れてしまっても、また思い出すことができ、使いすぎることもなくお金の大切さを感じていただけていると思います。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯をお持ちのかたはご自分でかけていらっしゃるし、ご家族が施設へ足を運んでくださることが多く直接お話ができています。お手紙も希望される方には、切手を買ってきたり、職員がポストに投函という形で支援しております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎日モップや掃除機などで掃除はしています。台所も三食その都度きれいに片づけ清潔になっています。目の前が公園なので窓から見える緑、空の青さは心地よく、温度は冷暖房快適を保つよう風よけなどで調整しています。	玄関ホール壁にはイベント時の写真を飾っています。廊下は広くリビングと一体化しており、吹き抜けの天窓からは自然の採光があります。リビングにはピアノを置き、どのコーナーも職員と利用者が一緒に作り上げた季節の飾りで彩られ、明るく暖かい雰囲気です。浴室前には分かりやすいように風呂マークを掲げています。	天窓のついた広々とした廊下のホールがあります。衝立や小さな本棚を活用して、利用者が一人でのんびりしたり、気の合った利用者同士で談笑してくつろげるようなスペースを設ける環境作りへの工夫も期待されます。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビ前にソファ席を置いたりリビングと食堂を二つの空間に分けておりリビングソファ席ではテレビをご覧になりながら入居者同士で談笑されたり、食席では1人で読書や塗り絵をされたり、入居者同士で工作をされたりなど思い思いに過ごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室にはご家族からの贈り物や写真、ご本人が以前から使用されているものを置く等落ち着いて過ごせる環境づくりに努めています。また、お誕生日会でスタッフが作成したカードなどを飾り、居場所として安心していただける様工夫しています。	エアコン、カーテン、ベッド、クローゼットが備え付けです。利用者はタンスや椅子など使い慣れた家具を持ち込み、思い出の品や写真を飾り、その人らしい居室にしています。居室担当で担当職員は飾り付けや整理整頓、衣類の入れ替えなどを行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご自身の物品や居室がわからなくなってしまうことがある為必要に応じて名札や印をつける等、安心して不安のない生活が送れるよう工夫しています。また、見守りの中食器拭きや洗濯物畳などできることを行っただけ、自立した日常生活を送っていただける様工夫しています。		

事業所名	ラ・プラージュ湘南
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念はだいぶ浸透してきていると思います。今年度は職員全体での研修は実施出来ていませんが、新入職員に向けては入職の際、理念についての研修を実施しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近所の方へのあいさつは習慣にしています。今年度は大きな行事が実施できていないため、事業所に足を運んでいただくことが出来ていません。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症があっても地域で生活できるという事を知っていただくために、散歩等を日常的に行っています。今年度も藤沢市グループホーム連絡会が主体となり認知症サポーター講座を実施する予定でしたが延期となっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	今年度はコロナウィルスの影響で、運営推進会議は書面にて実施しています。事業所の活動内容を報告して、意見やアドバイスをいただき事業に反映しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	2ヶ月に一度、藤沢市のグループホーム連絡会を実施予定でしたが、今年度は実施できておりません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束にあたる、具体的な行為などをミーティング等で共有しています。玄関の施錠については、ご家族からも戸締りをしたほうがいいのではと意見をいただき戸締りをさせていただいております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ミーティング等で虐待について学ぶ機会をつくっています。声掛け等、細かなところから日常的に気をつける組織風土をつくっていきたいです。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	事業所では、数人後見人を立てている利用者さんがいらっしゃいますが、まだまだ知識不足なので勉強する必要があると思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、解約または改定等の際は、利用者やご家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日頃から入居者やご家族の希望・要望を聴くことを心がけています。ご家族の面会時などに積極的にコミュニケーションをはかり、運営に反映できるように努力しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のフロアミーティングや、個人面談の際に意見や提案を聞く機会を設けています。その際に十分に検討して合意形成をはかってから、運営に反映するようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	常勤に関しては、能力や実績を把握できるように人事考課制度が見直されています。また、年に1回職員の意向調査・満足度調査をおこない、各自が向上心を持って働けるように職場環境を整備しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内では個々の専門性を高める為の研修が定期的に行われています。事業所内でも研修を担当する委員会を作り、職員がどんなことに不安を抱え何を学びたいのかアンケートを取り、アンケートをもとに研修の計画をたてています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内では、月に一度管理者が集まる会議を実施しています。昨年度から神奈川県グループホーム協議会の幹事も務めており、他事業所の取り組みなどを参考にしています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス開始前にご家族及び関連医療機関等から利用者様のこれまでのご様子・嗜好・既往歴等の聞き取りを行い、スタッフ間で共有・事前に支援計画を作成しています。また、利用者様が入居された後には、積極的声掛けを行い、信頼関係を構築、利用者様の御意向や、潜在的な不安を払拭するよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族とのコミュニケーションを密にして、利用者様の普段生活の様子をお伝えすることで、初期段階で判らなかった問題点・ご家族・スタッフの気付きを話合う機会を設け、状況によって変化のご家族の不安点困っていることの解決に向けて意見交換を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者様のこれまでの病状の経緯や、ご家庭のご様子・ご家族の御意向の聞き取りを徹底的に行い、必要とされる支援に優先順位を設定、まず、解決しなければならない点を明確にし、ご家族の同意を得た上で、当施設で出来る事、関連機関への支援要請を含め、広い視野でのサービス提供を心掛けて活動しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	生活歴や、性格を共有し、その方の出来るを維持できるように、また出来ないことを職員のフォローで出来るように支援しております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居者のご家族も、”共に生活する家族の一員”として考え、ご家族に対してもどんな支援が必要か・必要な情報は何か？を考え、併せてご家族からも安心して様々な相談を発信して頂けるよう、事務的ではなく、家族的な関係構築をスタッフ全員で常に考えて行動しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者のこれまでの生活様式等をご家族・関係者の方からヒヤリングを行い、今迄の生活環境に出来るだけ近づけるように工夫して支援を行っています。また、ご家族・お知り合いの方の施設へのご訪問の機会を作って頂けるよう、スタッフからも情報を発信しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	共有スペースでの利用者の方のご様子等をスタッフが注視し、適切なタイミングでの声掛け・簡単な家事を協働で行って頂く等、利用者の方々の良好な関係作りと維持を支援しています。また、利用者の方のパーソナルスペースを意識し過度の干渉等が発生した場合にも適切なタイミングでスタッフが介入し、個人のご気分を害さない様に、留意して支援を行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後も利用者であった方のご様子を含め、ご家族の状況等を伺う機会を設け、必要に応じて、過度な干渉にならない範囲での相談・支援を行えるよう良好な関係の継続・維持に努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者、ご家族・関係者の方々の御意向を傾聴し、スタッフ間で共有・分析を行い、ご希望に沿った支援を行うように活動しています。また、意向の把握が困難な方でも、ご本人の気持ちを汲み取り、その方が何を求めているのか職員間で共有しケアにつなげています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に、本人やご家族、関係機関から生活歴、その方の人となりなどの聞き取りをおこない、入居しても環境の変化、対応の変化に混乱することのないように心がけております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者一人一人の体調や生活スタイルを考慮し、必要に応じて安静臥床や散歩、外気浴をお勧めし、出来る範囲で家事を行っていただく等、残存能力を発揮して頂く場を設けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月のミーティング時にスタッフ間でモニタリングを行い、ご本人の思いを汲み取った上、ご家族や医療関係者とも意見交換をして、計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者個々に24時間スケールで記入をしています。記録は職員間の情報共有や、介護計画の見直しに役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者様への支援はケアプランに基づき実施していますが、個々のニーズに可能な限り沿うことが出来るよう、今後もサービス多機能化に努めてまいります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	状況に応じて近隣の公園・ドラッグストア等への外出したりして、地域資源を日々の支援に活かしていますが、コロナ禍で外へ出る機会は減っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居者様の体調不良時は、提携している訪問看護ステーションおよび主治医に指示を仰ぎ、対応をしています。また、24時間体制で往診して頂けるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	各入居者様の担当主治医や訪問看護師等の定期的な指導・助言を受けており、それに基づき適切な支援をしております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入院時は、担当医師・看護師等と入院時の状況や退院後の支援方法などの情報共有に努めています。そして利用者の主治医や訪問看護ステーションなどと積極的に関係作りを行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化・終末期と思われる入居者様には早期にご本人やご家族の意向を確認し、担当主治医や訪問看護師を交えて支援に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急マニュアルを作成しており、これに基づき緊急時の対応を行うよう周知徹底をしております。また、外部の研修などを通じて、実践力も身に着けるようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地震や水害等の災害を想定した法人内の避難訓練や事業所内での訓練などを年に数回程度実施をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者様のこれまでの環境や生活を熟考した上でケアプランを立て、入居者様の人格やプライバシーなどを尊重した支援を行うよう努めています。また、人権研修へも参加をして、人権意識を高められるようにしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	直接的に意思を表出可能な方とそうでない方もいらっしゃいますが、言葉や表情、動作等の色々な角度から各入居者の意思を汲み取り、尊重出来るように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様の年齢・体調・日々の様子の違いを職員で話し合い、入居者様にとって一番良い支援、入居者様優先の支援が出来るように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	個々人の好みに応じ、天候や季節感を大切にし、清潔な身だしなみが出来るように配慮し、支援しております。また、美容院への送迎やマニキュアなどのおしゃれを楽しまれる方への支援も大切にしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事が楽しい時間となるよう、入居者様と用意をしたり、片付けを手伝って頂いたり味付けや盛り付けにも配慮をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人一人の健康状況・水分量を把握し、対応しています。便秘時や水分の不足が気になる際は、都度その方に合った対応をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	起床時、昼食後、夕食後に口腔ケアを行っています。訪問歯科との連携も行い、健康な口腔環境を保てるよう支援をしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	各入居者様それぞれの排泄サイクルに応じて排泄介助を行っています。自立の方は、声かけをしたり見守りや一部介助をして、夜間帯はポータブルトイレを使用するなど、ご本人の力で排泄を続けられるよう支援をしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	下剤だけに頼らず、食事量や水分量の確認をし、こまめに水分摂取をするよう働きかけをしています。また、ヨーグルト・プルーンなどの便秘予防効果を期待出来るような食品を提供し、排便につながるよう意識をしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	全員が満遍なく入浴が出来るように配慮をしています。各入居者様の個々の状態に合わせて一般浴・シャワー浴などを実施しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	体調やご希望に合わせて休憩をお取り頂いています。夜間は、安眠出来るよう室温や照明などを調整しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋をファイリングし、服薬内容を職員間で共有しています。症状に変化があった場合は、主治医や訪問看護ステーションへ連絡をして指示を仰ぎ、また服薬時は誤薬や服薬忘れがないように職員複数名で確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	各利用者様が充実した毎日を送れるように食事の手伝い、洗濯物の整理、歌レクリエーション、散歩、ゲーム、買い物などをして、生活を楽しめるように支援をしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日には極力屋外へ出るようにして、花を見たり、散歩をしたりしています。また、買い物等も本人の希望を満たせるようにしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を所持していないことで不安を感じる方のために、ご家族の協力を得ながらお財布を持って頂き、不安を少なく出来るように支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙や電話のやりとりが行えるよう、お手伝いをしています。ご入居様やご家族様よりご希望があれば、施設の電話を利用して、お話が出来るようにしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有空間においては、程良い明るさ、鮮やかさ、色味・室温等に気を配り、快適な日常を提供出来るよう心掛けています。また、掲示物については季節を感じられるもの、各々が参加することで達成感を得られるものを掲示し、感性の活性化に努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者様同士が並んで談笑したり、テレビ鑑賞したり出来る様、椅子の配置を工夫し、ゆったりとした空間を整えています。また、1人用の椅子を置くなどして、個々の時間もお持ち頂けるように工夫をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室では馴染みの机を置いたり、ご家族との写真を飾り、居心地の良い生活を送って頂けるようにしています。また、日々のベッドメイキングやシーツ交換なども徹底するようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者のADLに合わせて「出来ること」「分かること」を活かせるように、バリアフリーを心掛け安全かつ自立した生活を送って頂けるように工夫をしています。		

2020年度

目標達成計画

事業所名 ラ・プラーージュ湘南

作成日：令和 3年 3月 18日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	7	職員の認知症ケアの専門性を向上したい。	認知症ケアの専門性を向上する。	・年度内で1回以上、認知症ケアについての勉強会をおこなう。 ・職員に認知症基礎研修、認知症実践者研修を受講してもらう。	12ヶ月
2	19	開所から10年がたち、物も増え雑然としている。入居者さんにとって、生活しやすい環境を作りたい。	認知症の方が生活しやすい環境をつくる。	・環境作りを行う委員会を中心に、現在の環境を見直し、課題を抽出する。 ・課題をもとに、生活しやすい環境作りをおこなう。	12ヶ月
3	17	コロナ禍で、入居者さんの活動が縮小され、生活に楽しみが減っている。	感染予防をしながら、楽しみをもって生活する。	・感染予防を念頭におきながら、できる活動を探していく。	12ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月